

続詞花和歌集

卷第三夏

六条右大臣家歌合に、ほたるをよめる　よみ人しらず

五月やみ沢辺の草はしげけれど

かくれぬ物はほたるなりけり

晩蛩を

仁和寺宮

釣簾の外に宵の灯消えやらで

ほのめくかげはほたるなりけり